



# 見沼小だより

平成29年度第10号

平成30年1月31日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」



「子どもは元気に外遊び」

校長 大澤 淳

早いもので、もう2月を迎えます。先日の1月5日の「寒の入り」から20日の「大寒」と、一年で最も寒い時期とはいえ、今年は記録的な大寒波に見舞われ、北日本や日本海沿岸だけではなく、関東地方にも大雪をもたらしました。校庭に積もった雪がなかなか融けず、先日は「雪山大作戦」と称して、校庭の中ほどの雪を校庭の隅に運び、大きな雪山を作る作戦に全校で取り組みました。バケツや自分の手で雪を運び、大きな雪山が校庭の隅に出来上がっていきました。みんな元気に、楽しそうに活動に取り組んでくれました。そして何より、子どもたちが走り回り、足でほぐしてくれた校庭の雪は、少しだけ上がった気温に助けられて、その日はずいぶんと融けていきました。雪を融かすこと、それから子どもが雪の中で思い切り遊ぶことが、今回のねらいですので、そのねらいはおおむね達成できた気がします。それでも、夕方から翌朝まではまた氷点下です。凍ってしまうので、校庭が使えるまでにはもう少し時間がかかるかもしれません。2月にはなりますが、まだまだ寒い日が続きそうです。そこで、朝会で次のような話をしました。

「今日は、雪に関連して、館岩自然の家の話をします。先生は以前、館岩少年自然の家で3年間勤務していました。見沼小でも5年生と6年生は行ったことがあるので自然の家は知っていますよね。他の学年の子も5年生になると必ず行きます。その館岩には、たくさん雪が降ります。1シーズンに降る雪は、数字を単純に足すと8メートルほどになります。数字を足すという意味は、例えば『今日は30センチ降りました』、そしてまた別の日『今日は50センチも降りました』という数字を毎回足していき、1シーズン全部足して、ということです。実際には、降った雪はどんどん圧縮されて低くなるので、目の前にある雪の深さは2メートルほどです。そこを雪かきして道を作っていきます。ですから、2メートルの雪の壁に囲まれた道が出来上がります。雪が降ると毎回、除雪機を使って雪を遠くへ飛ばしながら除雪します。一度雪が降ると、道を作るのに2時間ぐらいかかりますが、自然の家に来る中学生のために歩く道を作っておかなければなりません。中学生は雪の壁を見て、すごく驚き、また、感激してくれるので、それは嬉しかったです。

館岩の今頃は一番寒い時期なので、降った雪は全然融けずに、積もっていくばかりです。今頃の館岩の気温は、1月の終わり頃に館岩の所長さんに聞いたところ、『昨日はマイナス17.5度でした。』と教えてくれました。先生が経験した一番低かった気温は、マイナス23度でした。その日スキー場に行ったときですが、ゲレンデの空気がキラキラキラキラ光っていました。空気中の水蒸気が凍って光っているのです。それからスキー場全体に青みがかかって見えました。これはなぜだかわかりませんが、光の屈折の関係だと思えます。みんなも、さいたま市に住んでいて中学校へ進学すれば、必ず館岩自然の教室でスキー実習をします。雪の壁や、すごく低い気温など経験することになるかもしれません。タオルを濡らして、普通にギュッと絞って、伸ばしてくるくる回すと、凍ったタオルの棒がすぐできます。こんな経験ができるかもしれません。

昨日は校庭の雪かき、ご苦労様でした。でもまだ、校庭は使えません。館岩のような雪国は、5月のゴールデンウィークごろまで校庭が使えない状態です。だから、みんなもう少し我慢してください。」

子どもたちにとって校庭で遊べないということは、ストレスのたまることです。できるだけ早く校庭使用ができることを願っています。ちなみに、館岩の小中学校は雪に閉ざされてどうしているかといえば、たっぷりある雪の中でしっかりスキー実習の授業をしています。ですから、どの児童生徒も、アルペンスキーヤーのように見事に滑走できます。「子どもは元気に外遊び」は、どんな場所でも基本です。